

# 地教連ニュース

2002-1-18

事務局 エルムアカデミー 〒142-0053 品川区中延 5-6-14-2f  
03-3784-5676 Fax03-3784-5609 elm@kiwi.ne.jp  
Yzwhiro@aol.com (矢沢：地教連事務局担当)  
地教連ホームページ hppt://www.tamagaku.com/chikyoren

## 新年学習会と新年交流会のご案内

日時：2002年2月3日(日) 午後1時45分  
会場：品川区荏原第4集会所(東急大井町線荏原町駅下車目の前)  
「CAP」<児虐待防止プログラム>のワークショップを行い、その後新年会を開催する予定です。詳細は追って連絡します。

## 第17回子育て文化協同全国交流研究集会のご報告

ひとりぼっちの子育てからみんなで支え合う協同の子育てへ  
2001年12月8日(土)～9日(日)  
会場：岐阜市長良川国際会議場&多賀旅館(JR岐阜駅よりバス)

12月8日(土)12:00～  
全体会(オープニング/記念講演等) 記念講演：田中孝彦氏(北海道大学)

12月9日(日)9:00～15:00 分科会/分散会/ワークショップ  
居場所づくりと学び…地域塾から 地教連(矢沢)の担当です  
僕たちの働き方・学び方、そして生き方(15歳～青年) 地教連(佐藤)の担当です

現在、東京からは地教連常任(佐藤洋作、珊瑚饒、平塚恵一、矢沢宏之)とみたか、中野などの団体が参加の予定です。その他、東京から車で参加も検討中です。参加ご希望の方は事務局矢沢までご連絡ください。

また、集会のチラシが来ていますので、団体に配布できる場所ではご連絡下さい。

12月8～9日、岐阜で開催された「子育て文化協同 全国交流集会」に YCP (Youth Careers Programs = 仕事と青年をつなぐための職業教育プログラム。国際青少年育成財

団「IYF」から「Children's Hour 募金」の助成を受け、今年度はプログラム開発を主眼に展開中)に関わるメンバーと一緒に参加してきました。

参加した分科会(第12分科会/12月9日)のテーマは「私たちの学び方・働き方、そして生き方」。厳しさを増し即戦力志向を強める労働市場の状況は、図らずも多くの青年に「競争や立身出世の社会とは違う、もう一つの生き方・働き方があるかもしれない」という気持ちを芽生えさせています。しかし、その要求を満たせる世界との出会いは少なく、「宙ぶらりん」な状態であることも確かです。「この先」が見えない状況は、不登校・引きこもりの経験のある青年にも言えることです。12分科会では、主に不登校・引きこもりを経験した青年が、どうやって「次のステージ=仕事の世界」とつながっていくか(あるいは仕事の世界をつくりだしていくか)という問題意識から実施されている全国の事業を報告し合い、そこに、同じく「この先」が見えずにいる大学生などが参加し、同時代を生きる仲間としての話し合いがもたれました。

午前中、当NPOから「School to Work」セミナーと「ホームヘルパー3級養成講座」について、なぜそのような事業が必要になってきたかと合わせて報告しました。次に岐阜で引きこもり経験のある青年を対象とした「真塾」の堀さんから、INAXから仕事を受注し、「お互いの自律の為に働き、生活費や自然保護活動、福祉活動などの一助とする」目的で、「自然学舎 工房」の設立に向けて活動していることが報告されました。休憩を挟んで、『カンパネラ』でも取り上げた千葉の「ニュースタート」の田嶋さんから、引きこもり本人が共同生活をおくる「若衆宿」、実際に働く経験をする「福祉コンビニ」「喫茶『縁側』」など多様な活動について報告がありました。

「自立」「社会参加」「School to Work」と、これらの事業の目的は多岐に及び、それは事業体の間でも、同時代を生きる青年の間でも共有できるものでした。この発見(というか確認……でしょうか)が、一番の成果と言える気がします。なぜなら、同じ問題意識の者同士が知り合いネットワーク化されることは、「今までとは違う、もう一つの仕組み」を広く社会に根づかせ、また、行政などに訴えていく際のチカラになるからです。

もちろん、YCPに反映できる具体的なプログラムのイメージについて先行事業から学ぶことができたのも大きな成果です。「やりたいこと探しをサポートするプログラム」というより、「できること探し」と「できることを広げるサポート、その条件づくりのプログラム」。迷走する「自分探し」を支えるには、そういうスタンスの方がいいのかもしれないなあ……という気がしてきています。

最後に、分科会に参加した全国の青年ネットワーク(要するにメーリングリストなのですが)がつくれたことも成果です。悩みを共有し、また、全国の実践や事業をタイムリーに交流できることは、草の根からの運動を進める大きな力になることでしょう。

## 会費納入のお願い

2001年度(2000年度も含めて)の会費をお納め下さい。今年度分はまだ数口しか納入がありません。会を支えるためにも納入をお願いします。(請求書は順次発行していきます)

振込先;郵便局の総合口座 記号10030 口座番号64626421 地域教育連絡協議会  
郵便局の総合口座をお持ちの方はお近くの自動振り込み機械から 130 円で振り込めます。

**団体会費 10000円(専任職員が2人以上いる団体に適用)**

**個人会費 4000円**

**賛助会費 2000円**

**学生賛助会員 1000円**

請求会費の納入のない方は、ニュース等の配付を停止させていただくこともあります。あ  
しからず、ご了承下さい。

---

## 地教連の秋の研究交流集会の報告

---

10月28日(日)に開催された2001年研究交流集会のレポートが、雑誌「教育」  
2月号に掲載されています。

地域教育連絡協議会 秋の研究集会に参加して 鏡 一太 エルムアカデミー

この研究集会の参加した若手教員が中心になり松井先生を囲んで、数学サークル  
「TSUBO」(授業のツボの意から)が発足します。サークル例会日程や場所などはお知ら  
せしますので、ぜひ若手の方にお知らせください。

詳しくはエルムの中塚史行とみたかの佐藤菜々美までお問い合わせください。

## 経費節減、御協力をお願い

昨年に引き続き、方針通り、通信をEメールで送付したいと思います。アドレスをお待ちの方は、Yzwhiro@aol.comまで「地教連メール」と入れて下さい。団体の方は団体の職員の方にも配信をしますので、個人のメールアドレスもお知らせ下さい。

会費を今回値下げしました。アドレスのある方は経費削減のためにアドレスの登録をぜひお願いします。なお、アドレス登録された方は、郵便でのご連絡は割愛させていただきます。

## 地教連のメーリングリスト(ML)も運用しています。

MLに加入すると加入者相互に意見の交換などが容易にできます。また、地教連や各地の情報もリアルタイムで入手できるのでとても便利です。

加入希望の方は webmaster@tamagaku.com (多摩学習センター：地教連ホームページ担当)まで

地教連参加塾のホームページアドレス一覧は地教連HPをご覧ください。

各塾でHPをお持ちの場合、地教連HPで相互リンクを張れます。相互リンクを張ればアクセス数が伸びます。ぜひ、相互リンクをはっていきましょう。

# 地 教 連 情 報

2002-1-17

## 地教連ホームページ

地教連ホームページには地教連の最新情報や各塾の行事なども掲載されています。ぜひ、アクセスして下さい。

アドレスは [hppt://www.tamagaku.com/chikyoren](http://hppt://www.tamagaku.com/chikyoren)

地教連のHPに情報を掲載したい方は直接ウェブマスターの後藤さんにご連絡をお取り下さい。HPよりメールが送れます。

## 「ひきこもり」問題の解決と支援のためのアンケート調査のお願い

臨床教育研究所「虹」(尾木直樹所長)では「ひきこもり」問題の解決と支援のためのアンケート調査を実施しております。対象として次の方を「ひきこもり」と考えていますので、

**「とくに精神的な障害がきっかけではなく、自宅や自室に6ヶ月以上の長期間ひきこもって社会参加できないでいる中学卒業段階以降の青年の状態」**

**(注) 現役の小・中学生の「不登校」は含みません。**

該当する方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。こちらからアンケートを郵送します。よろしくご協力をお願いします。

## 第47回子どもを守る文化会議のご案内

子どもの、おとなの、心がひびきあう21世紀を！

子どもの権利条約を草の根からの運動で現実に

第1日目 全体会 2002年2月23日(土) 13:00-16:00(12時半開場)

石和観光温泉ホテル慶山

記念講演「人間であること」とはー 寺嶋 萬里子氏(写真家、医師)

～ハンセン病療養所に5年通って～(写真展もあり)

文化企画 大型紙芝居「さくら座」(山梨市)

第2日 分科会 2002年2月24日(日) 9:00～15:00

石和観光温泉ホテル慶山・県立勤労青年センター・リバース和戸

分科会テーマ

乳幼児の発達保証

障害児・者の発達保証、地域づくり

子どもの学びと学力問題

地域の生活と文化をつくる

親・子どもの教育参加

子どもの健康を守るための環境をつくる

安心と自由の学校 子育てを考える～不登校、中退、ひきこもり、虐待の視点から～

平和の文化を創造する  
子どもの人権と社会保障制度  
青年の広場

参加費：一般参加 2,000円 大学生・大学院生 1000円(資料代含む)  
高校生以下無料

## 生徒と父母と教職員でつくる私学のつどいのご案内

とき 2002年2月17日(日) 9:30開場

場所 正則高等学校(菅団日比谷線 神谷町駅下車、都営三田線)

全体会 10:00~12:30

父母と教員の寸劇

「裁判・私学助成署名妨害禁止の申し立て」

記念講演 山田洋次

「『学校』シリーズを撮る私の思い」

高校生の創作劇

昼休みコンサート

分科会 14:00~16:30

テーマ別教育懇談会

第1分科会 「いじめのない仲間づくり」(本音で話し合ったことがありますか)

第2分科会 「不登校を考える」

第3分科会 「現代の中学生とどう向き合うか」

第4分科会 「生徒会を語ろう」

第5分科会 「三者で関わる学校づくり」を考える

第6分科会 「進路」

第7分科会 「平和とは個性に輝くこと」(活かせ憲法 日本国憲法は人類の宝)

第8分科会 「魅力ある学級懇談会とは」(クラスの様子が見えますか?)

第9分科会 「今こそ熱く語ろう私学助成運動」

第10分科会 「こどもたちの心とからだ」

いきいき面白セミナー

総合学習

数学 「光の偏光の不思議！」

社会 「日本の歴史をどうふり返るか - 『新しい歴史教科書』を読んで - 」

理科 「万華鏡とフリーエの独楽」

特別分科会

「なぜ増えるフリーター」 - 親、教師はフリーターをどう考えるか -

「男女平等教育って何だろう」 - 学校で、家庭でみられるジェンダー・バイアス -

「教育課程を考える」